

「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」
第2回仙尾部奇形腫班会議・議事録

日時：平成27年8月2日(日) 13:00～14:00
場所：聖路加国際病院旧館5階研修室A

出席者：田尻達郎，臼井規朗，田村正徳，左合治彦，小野 滋，米田光宏，宗崎良太
(以上分担研究者)，側島久典，左 勝則，高橋 健，文野誠久(研究協力者)
欠席者：野坂俊介(分担研究者)，杉浦崇浩，東 真弓，坂井宏平(研究協力者)

I. 報告事項

1) 昨年度までの進捗状況

臼井副班長に SCOPE および CQ 作成を行っていただき，2014 年 12 月に完成した．CQ は以下の 6 題とした．

CQ1：生命予後に関わるリスク因子はなにか？

CQ2：骨盤外腫瘍病変に対して，帝王切開をした場合は予後が改善するか？

CQ3：外科的治療において腫瘍栄養血管の先行処理は有効か？

CQ4：IVR は補助的治療手段として有用か？

CQ5：治療後の再発のフォローアップのためには，どのような検査が推奨されるか？

CQ6：治療後の長期合併症（後遺症）にはどのようなものがあるか？

これをもとに，文献検索を行った．検索数は全部で 1,388 であった．

2) 一次スクリーニング

レビューチームで一次スクリーニングを行った．結果文献数は 354 となった．これから 2 次スクリーニングに向けて，フルテキスト収集に当たる．

II. 審議事項

1) 文献収集

まず京都府立医科大学で収集を行い，入手不能分は大阪大学，九州大学にお願いする．それでも難しいものは，京都府立医科大学図書館を通してコピーを入手する．全ての文献を PDF 化する．

2) 2 次スクリーニング

班員全員で分担して，CQ 毎に選択基準にあった論文を選択していく．除外したものは除外理由を記載する．1 つの文献を 2 名で判断するので，708 の文献を 15 人で分けるので一人あたり約 50 ほどの予定である．基準として，動物実験は除外，症例報告は含める．同じ論文が異なる CQ に対して重複して出てくる場合は，CQ に沿って判断する(同一論文でも CQ が異なれば採用されたり除外されたりする可能性がある)．

3) 今後のスケジュール

・文献収集：8 月中

・2 次スクリーニング：11 月までに

- ・エビデンス総体の評価：3月までに（杉浦先生にマネジメントをお願いする）
- ・推奨作成：2016年3月18-19日に京都で班会議を行い作成する。（作成しやすいCQを優先して作成する。積み残しは、平成28年度に作成する。）
- ・草案作成・外部評価・パブリックコメント：平成28年度中に、先行の他グループと同様に行う。

以上